

南木曽町橋梁長寿命化修繕計画

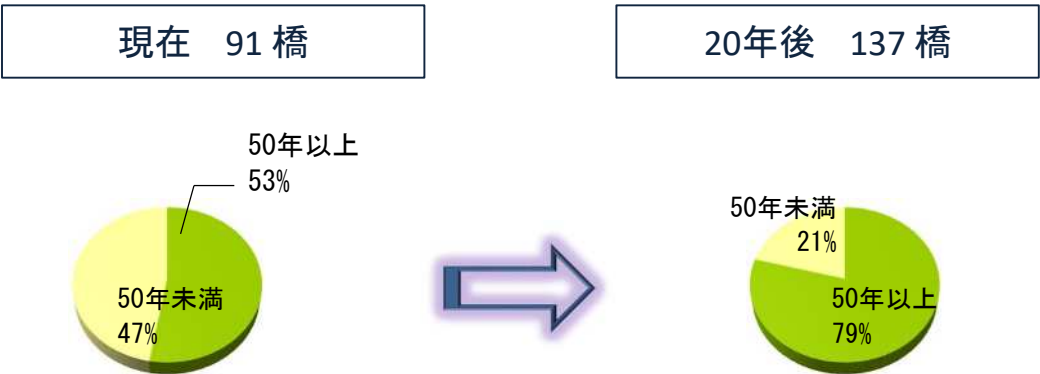


南木曽町が管理する橋梁について橋梁長寿命化修繕計画を策定しました。

背景

■橋梁の高齢化と劣化が進んでいます。

架設年次が判明している173橋のうち建設後、50年を経過した橋の割合



- ・ 20年後に架設後50年を経過する橋梁は全体の約79%を占めており、近い将来一斉に架け替えの時期を迎えます。
- ・ 損傷、劣化が進行すると、橋の通行止めや最悪の場合は落橋に至る可能性もあります。

計画内容



今回の橋梁長寿命化計画に基づいて維持管理を行います。

耐荷性		重要度		主な修繕内容	
高	高いほど橋の健全度が高い	高	・橋長 ・迂回路の有無 ・交差状況 ・バス路線	主桁(鋼)	再塗装、断面補修
低		低		主桁(コンクリート)	ひび割れ補修、断面補修
				床版	打換、ひび割れ補修、断面補修
				橋台、橋脚	断面補修
				伸縮装置	取替
				舗装	打換
				その他	架替

優先順位の決定

方針・目的

- 定期点検の基本方針
5年に1回を目途に定期点検を実施し、橋梁の損傷状況を把握し修繕計画に反映させます。
- 日常的な維持管理に関する基本方針
毎月行う道路パトロールにより、異常の早期発見、小規模な維持作業を実施します。
- 計画方針
従来の“壊れたら直す”維持管理から“損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う”計画的な維持対策を図り、対象橋梁の寿命を延ばすこと、架換え時期の分散化を目標とします。また計画的な修繕計画を実施することにより、橋梁の修繕に係る事業費の拡大を回避し、必要予算の平準化を目指します。

効果

■コストの削減

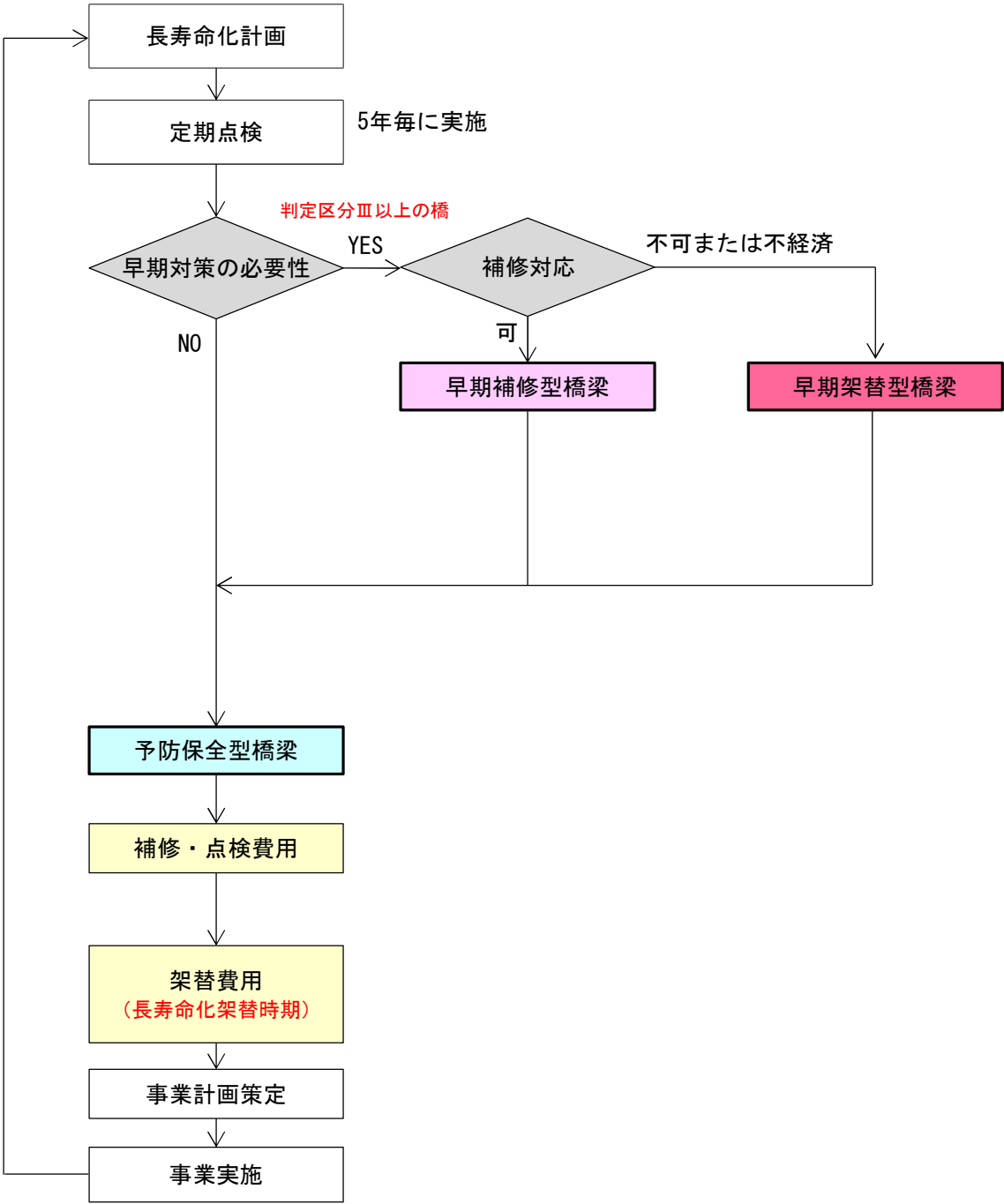


今後50年間に必要な維持管理費
※架替費用を含まない

■安全性の向上

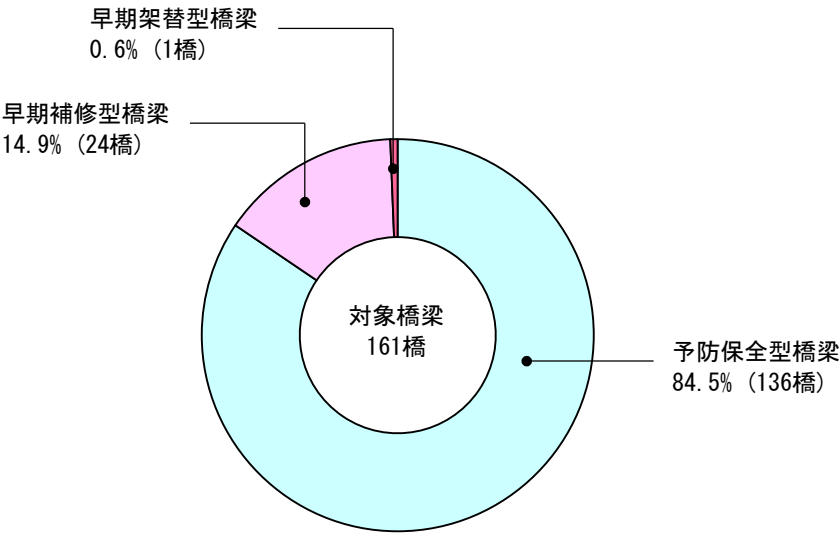
橋梁点検を実施して、現状を把握しながら適切な時期に的確な修繕工事を実施することで、損傷の進行に起因する通行制限等が減少し、橋梁の安全性が向上するとともに、道路ネットワークの信頼性が確保できます。

【管理方針の選定フロー】



●定期点検の結果等をふまえて対象橋梁を以下の 5 つに分類する。

分 類	内 容	計
予防保全型橋梁	予防的手法により補修を行い、長寿命化を図る	136
早期補修型橋梁	早期対策を必要とし、補修を行う	24
早期架替型橋梁	早期対策を必要とし、架替を行う	1
合 計		161



【管理方針の分類と例】

予防保全型橋梁

- ・ 一般的な構造の橋梁を対象とする
- ・ 予防的手法により補修を行い、長寿命化を図る



早期補修型橋梁

- ・ 劣化・損傷が著しく、早期に対応すべき橋梁
- ・ 補修対応が可能、かつ補修が経済的である場合



早期架替型橋梁

- ・ 劣化・損傷が著しく、早期に対応すべき橋梁
- ・ 補修対応が不可能、または補修が不経済である場合

